

静岡県立大学短期大学部

令和8年度 前期・通年 社会人聴講生用 科目一覧

No.	科目名	担当教員	単位数	開講曜日・時限	備考
1	現代と哲学	尾崎 賛美	2単位	月曜・4限	
2	言語と表現	村松 純光	2単位	月曜・4限	
3	介護レクリエーションⅣ	澤田 みどり	0.5単位	月曜・3-4限	
4	家族福祉論	奥田 都子	2単位	火曜・1限	
5	社会保障論Ⅰ	中澤 秀一	2単位	火曜・5限	
6	日本国憲法	根本 猛	2単位	火曜・5限	
7	データサイエンス入門	高田 佳輔	2単位	火曜・5限、金曜・2限のいずれか	要事前相談
8	音楽通論	山本 学	2単位	水曜・1限	
9	生活と法	根本 猛	2単位	水曜・1限	
10	国際関係論	金 美連	2単位	水曜・2限	
11	地球環境論	雨谷 敬史	2単位	水曜・2限	
12	乳児保育Ⅰ	岡村 由紀子	2単位	水曜・3限	
13	教育社会学	橋本 勝	2単位	木曜・1限	
14	子どもの表現A	山本 学	1単位	木曜・3限	保育士、幼稚園教諭に興味がある人
15	現代と歴史	厚地 淳司	2単位	木曜・5限	
16	生物学	小林 公子 大原 裕也 明正 大純	2単位	金曜・1限	
17	地域社会論	志田 倫子	2単位	金曜・1限	
18	特別な教育的ニーズの理解と支援	甲賀 崇史	2単位	金曜・2限	通年科目
19	公的扶助論	中澤 秀一	2単位	金曜・2限	
20	実用英会話	ピーターズ マイケル	2単位	金曜・4限、金曜5限のいずれか	通年科目
21	生命と倫理	堂園 俊彦	2単位	金曜・5限	

※開講曜日・時限は変更となる可能性があります

※同時開講（開講曜日・時限が同一）の科目は、いずれか1科目のみ聴講可能です

時限	時間
1	9:00～10:30
2	10:40～12:10
3	13:00～14:30
4	14:40～16:10
5	16:20～17:50

令和8年度前期講義時間割(4月~9月)

【社会人聴講生用】

曜日	学年	学科	9:00~10:30 1限	10:40~12:10 2限	13:00~14:30 3限	14:40~16:10 4限	16:20~17:50 5限	
月	1	歯科衛生				現代と哲学 (尾崎)		
		介護福祉					103	
		社会福祉				言語と表現 (村松)		
		こども					102	
	2	歯科衛生						
		介護福祉			/介護レクリエーションⅣ/ (澤田)			209
		社会福祉				言語と表現 (村松)		
		こども					102	
3	歯科衛生							

曜日	学年	学科	9:00~10:30 1限	10:40~12:10 2限	13:00~14:30 3限	14:40~16:10 4限	16:20~17:50 5限	
火	1	歯科衛生						
		介護福祉						
		社会福祉					社会保障論Ⅰ (中澤)	307
		こども					日本国憲法 (根本)	104
	2	歯科衛生						
		介護福祉	家族福祉論 (奥田)	209				
		社会福祉					データサイエンス入門 (高田)	
		こども						154
3	歯科衛生							

曜日	学年	学科	9:00~10:30 1限	10:40~12:10 2限	13:00~14:30 3限	14:40~16:10 4限	16:20~17:50 5限
水	1	歯科衛生	生活と法 (根本)				
		介護福祉					
		社会福祉				乳児保育Ⅰ (岡村)	
		こども					104
	2	歯科衛生		国際関係論 (金)	105		
		介護福祉					
		社会福祉	音楽通論 (山本学)	351	地球環境論 (雨谷)	307	
		こども					
3	歯科衛生						

曜日	学年	学科	9:00~10:30 1限	10:40~12:10 2限	13:00~14:30 3限	14:40~16:10 4限	16:20~17:50 5限
木	1	歯科衛生					現代と歴史 (厚地) 103
		介護福祉					
		社会福祉					
		こども					
	2	歯科衛生					
		介護福祉					
		社会福祉					
		こども	教育社会学 (橋本勝) 105		子どもの表現A (山本学) 351		
	3	歯科衛生					

曜日	学年	学科	9:00~10:30 1限	10:40~12:10 2限	13:00~14:30 3限	14:40~16:10 4限	16:20~17:50 5限
金	1	歯科衛生	地域社会論 (志田) 102	データサイエンス入門 (高田) 154			実用英会話 (ピーターズ) 306
		介護福祉					生命と倫理 (堂園) 103
		社会福祉	生物学 (小林公ほか) 103			実用英会話 (ピーターズ) 306	
		こども					
	2	歯科衛生					
		介護福祉					
		社会福祉		公的扶助論 (中澤) 308			生命と倫理 (堂園) 103
		こども		特別な教育的ニーズの理解と支援 (甲賀) 105			
	3	歯科衛生					

- ・時間割は、「科目名」、「担当教員」、「講義室No.」で表記。
- ・時間割の斜線科目(/ /)は、隔週または変則開講のため、同一の時間でも複数科目履修登録できる。
- ・時間割の同時限破線区分の科目は同時開講のため1科目を選択。

●前期授業
4月10日(金)~8月3日(月)

科目名	現代と哲学	The Modern Age and Philosophy		
学科（専攻）・学年	全学科・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	尾崎 賛美			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP2, 4 社会福祉学科DP1, 4 こども学科DP5			
授業の目的（GIO）	西洋の哲学者たちの思想について学ぶ中で得られた知見を土台とし、現代社会における諸問題について、哲学的・倫理的観点から論理的に思考するとともに、自らの見解を自らの言葉で言語化する能力の涵養を目指します。			
授業の到達目標（SBOs）	私たちが生きる現代社会には様々な問題が内在していますが、何が本質的な問題であり、何がそうでないのかを見定める訓練を重ねていかなければ、問題の核心にまで至ることはなかなかできません。そこで、本講義の前半では、西洋の哲学者たちが築き上げてきた倫理的な思考の基本的な枠組みを学び、このことを通じて、物事を深く考える力の涵養を目指します。講義後半では、今日の様々な場面や文脈における倫理的な諸問題を取り上げ、前半での学びから得た知見を踏まえつつ皆さんとともに考えていきます。これらの取り組みを通して最終的には、皆さん自身の力で、現代社会における様々な問題について、哲学的・倫理的観点から考察を行い、それを言語化できるようになることを目指します。			
授業の計画と内容	第1講 インタロダクションー本講義の概要や成績評価方法についての説明ー 第2講 道徳的な問題を問うことは可能か？ーメタ倫理学入門ー 第3講 正直者は不幸か？ープラトン（ソクラテス）、アリストテレスにおける徳倫理ー 第4講 自己利益と共存のジレンマーホブズ、ロック、ルソーを中心とした社会契約論ー 第5講 動機が「善い」から行為は「正しい」のか？ーカントの義務論ー 第6講 「善い」結果をもたらす行為が「正しい」のか？ーベンサム、ミルを中心とした古典的功利主義ー 第7講 個人の自由と社会的平等は両立し得るか？ーリベラリズム、リバタリアニズム、コミュニタリアズムを中心にー 第8講 中間総括ー第7講までの振り返りと、期末レポート作成にあたっての具体的な説明ー 第9講 具体的事例の考察①ー安楽死問題の現在と歴史的背景ー 第10講 具体的事例の考察②ー積極的安楽死問題の是非をめぐってー 第11講 具体的事例の考察③ー予防拘禁の是非を切り口とした責任と自由の問題ー 第12講 具体的事例の考察④ーエンハンスメントに内在する倫理的問題ー 第13講 具体的事例の考察⑤ーエンハンスメントの倫理から見えてくる現代社会の課題ー 第14講 具体的事例の考察⑥ー能力主義社会に潜む倫理的問題ー 第15講 具体的事例の考察⑦ー能力主義社会の是非を問うー			
評価の方法	各回で提出してもらおうコメントペーパー(30%)と期末レポート(70%)			
テキスト	第9～13講は、ユニバにアップするテキストを事前に熟読の上、講義に臨んでください。			
参考書	・第9～11講：トニー・ホープ『医療倫理』、児玉聡・赤林朗訳、岩波書店、2007。 ・第12・13講：マイケル・サンデル『完全な人間を目指さなくてもよい理由ー遺伝子操作とエンハンスメントの倫理ー』、林芳紀・伊吹友秀訳、ナカニシヤ出版、2010。 （参考）第14・15講：マイケル・サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か?』、鬼澤忍訳、早川書房、2023。			
学生へのメッセージ	各回講義資料は事前にユニバへアップしますので、よく予習した上で授業には参加していただきたいですが、それとともに各講義で学んだことを踏まえ、自分の身の回りにおける様々な社会的問題にも関心を向け、自ら主体的に思考する習慣をつけていただければと思います。			

科目名	言語と表現	Linguistics		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・2年 こども学科・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	村松 純光			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP4 こども学科DP5			
授業の目的（GIO）	様々な言語活動を通じて日本語で表現することの面白さに触れ、積極的に他者とコミュニケーションを図ろうとする態度や論理的思考力を身につける。			
授業の到達目標（SBOs）	<ul style="list-style-type: none"> ・表現行為（主に「書くこと」）の日常化を図ることで、照れや抵抗感を減らすことができる。 ・自らや仲間の表現に多くふれることで、聴き手や読み手に配慮した表現法を意識化できるようになる。 ・他者に対し説得力のある表現を考える過程で、論理的思考力を身につけられるようになる。 ・「読む」「書く」「聞く」「話す」演習各種を通じ、理解力が身につく、表現の精度も高められるようになる。 			
授業の計画と内容	第1回 表現とは何か、文と文章、こどもの文章（表現）とおとなの文章（表現） 第2回 おとなの文章（表現）と気が利いたおとなの文章（表現）、プロの文章（表現）に学ぶ 第3回 「描写」とは何か①、参考資料の講読 第4回 「描写」とは何か②、視覚情報を文字情報に変換する演習 第5回 「見る」とは何か①、参考資料の講読、物をよく「見る」演習 第6回 「見る」とは何か②、物をよく「見る」と言葉に置き換える演習 第7回 ノンフィクションからフィクションへ グリム童話に学ぶ論理と「物語」展開のパターン 第8回 創作でコミュニケーション①、「相談」で展開する物語「起」編 第9回 創作でコミュニケーション②、「相談」で展開する物語「承」編 第10回 創作でコミュニケーション③、「相談」で展開する物語「転」編 第11回 創作でコミュニケーション④、「相談」で展開する物語「結」編 第12回 「アイデア」はどこから来るのか、「ひらめきの法則」を用いた演習 第13回 「韻文」とは何か、散文との違いを体感するための演習 第14回 「言語と表現」の最前線、現代を代表する表現者の言葉にふれる 第15回 教科書の中に見る「表現」、わが国最大の紙メディアは「表現」をどう扱ってきたか			
評価の方法	平常点30%、提出物（レポートを含む）70%			
テキスト	毎時プリントを配布する。			
参考書	授業にて適宜紹介する。			
学生へのメッセージ	提出された課題は可能な限り音読やスクリーン投影等を通じて紹介します。自らがおこなった表現はもれなく全体に共有される可能性があると思って取り組んでください。今の自分を変えたい方、興味関心の幅を広げたい方の受講を期待します			

科目名	介護レクリエーションⅣ	Care RecreationⅣ		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科介護福祉専攻・2年	単位数	カリキュラムにより異なります。	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	演習	聴講可
担当教員	澤田 みどり			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP4			
授業の目的（GIO）	<p>1)ご利用者の日々の生活を豊かにし、五感を使い、四季を楽しみ、共感する場面を増やす関わりを模索する方法として、「園芸療法」を活用した介護レクリエーションを企画・実施するための知識と技術を学ぶ。</p> <p>2)実際の園芸療法プログラムを体験し、園芸の楽しさ、可能性などを学ぶ。</p> <p>3)プログラム実施の基本である「場づくり・関係づくり＝コミュニケーションスキル」についても、講義・演習を通して学ぶ。</p>			
授業の到達目標（SBOs）	演習を通して、「園芸療法」（植物や植物のある環境、植物を育てる園芸作業をリハビリテーションに活用する方法）を基に園芸の楽しさ、可能性を知り、現場で活用できるプログラムを習得する。サービス利用者が年間を通して植物や園芸作業を暮らしの中に取り入れ、将来の希望、達成感、自己有用感、共感を得、協働、仲間づくり、居場所づくりになる活動を考える応用力を身につける。			
授業の計画と内容	<p>第1講 講義：「人間植物関係学」及び「園芸療法概論」</p> <p>第2講 演習：園芸実習①「寄せ植え、押し花、ドライフラワー」</p> <p>第3講 講義：園芸療法プログラム立案方法、評価方法</p> <p>第4講 演習：園芸実習②障害体験を兼ねたロールプレイ「かわいれ大根の水耕栽培」</p> <p>第5講 講義：様々な施設及び被災地支援、介護予防における園芸療法実践事例紹介</p> <p>第6講 演習：園芸実習③「芝坊や作り」</p> <p>第7講 講義：園芸療法プログラム発表・まとめ</p> <p>第8講 演習：園芸実習④「押し花作品作り、ドライフラワー作品作り」</p>			
評価の方法	授業参加度30%、演習態度30パーセント、提出物（レポート）40%			
テキスト	参考文献は授業中に適宜提示。授業に直接関係する資料は随時配布。			
参考書	<p>山根寛・澤田みどり著(2009)「ひとと植物・環境―療法として園芸を使う」青海社</p> <p>岩崎寛・澤田みどり他著(2025)「園芸作業療法ガイドブッケー園芸×作業がWell-beingな未来を創る」クリエイツかもがわ</p> <p>菊川裕幸・剣持卓也編著(2026)「Bright with Green」神戸学院大学出版会</p>			
学生へのメッセージ	<p>今後施設などで活用できる植物の育て方、日々の暮らしの中での楽しみ方を事例と共に紹介します。</p> <p>毎回植物による五感の刺激、季節を感じるミニレポートを課題に出します。</p> <p>また、演習で扱う植物は、責任をもって育てます。</p> <p>最終講義では、各自が対象者を想定し、植物や園芸作業を用いたプログラムを立案し、発表します。</p>			

科目名	家族福祉論	Family and Social Welfare		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科介護福祉専攻・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	奥田 都子			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP1、DP2、DP3、DP4、DP5			
授業の目的（GIO）	<p>1）家族を取り巻く社会環境や、その影響下にある家族の生活と家族関係について理解を深めるとともに、家族の現状と問題について学ぶ。</p> <p>2）援助を必要とする家族の状況について学ぶとともに、家族の福祉を図るための諸制度及び福祉サービスについて基本的な知識を習得する。</p> <p>3）福祉ニーズをもつ家族が安心して生きがいのある生活を営めるように、援助者の立場から家族の生活環境の維持・改善の方法を提案するために必要な知識や技術を身に付ける。</p>			
授業の到達目標（SBOs）	<p>1）家族の現状と家族の生活に生じる問題点について理解できる。</p> <p>2）福祉ニーズをもつ家族の状況およびその支援体制について、基本的な知識に基づき説明できる。</p> <p>3）福祉ニーズをもつ家族の事例についてアセスメントを通して支援方法を考え、自立生活の維持と生活環境改善に向けて提案することができる。</p>			
授業の計画と内容	<p>第1講 家族福祉論の目的、家族を取り巻く社会的変化、少子高齢化・単身化・多様な家族形態、福祉専門職が「家族」を学ぶ意味</p> <p>第2講 家族の機能と構造の基礎 家族の機能、ライフサイクル、介護・障害支援における家族の役割</p> <p>第3講 現代社会と家族①結婚減少社会の現状</p> <p>第4講 現代社会と家族②家族とワークライフバランス</p> <p>第5講 現代社会と家族③子育て困難社会の現状</p> <p>第6講 福祉ニーズを持つ家族の理解と対応①ひとり親家庭とダブルケア、ヤングケアラー</p> <p>第7講 福祉ニーズを持つ家族の理解と対応②介護家族の負担と支援</p> <p>第8講 福祉ニーズを持つ家族の理解と対応③障害者福祉と家族支援</p> <p>第9講 福祉ニーズを持つ家族の理解と対応④高齢者虐待・障害者虐待と家族</p> <p>第10講 福祉ニーズを持つ家族の理解と対応⑤家族介護者のメンタルヘルス、傾聴とアセスメント</p> <p>第11講 地域包括ケアと家族（地域包括支援センターの役割、家族と地域資源のつなぎ方）</p> <p>第12講 家族支援の事例検討①認知症高齢者と家族の支援（支援計画の作成）</p> <p>第13講 家族支援の事例検討②認知症高齢者と家族の支援（ロールプレイ）</p> <p>第14講 家族支援の事例検討③要介護高齢者と家族の事例（支援計画の作成）</p> <p>第15講 家族支援の事例検討④要介護高齢者と家族の支援（ロールプレイ）</p>			
評価の方法	<p>①リアクション・ペーパー 20%</p> <p>②授業態度(質問、発言、グループワークへの寄与、ロールプレイ・発表会への参加) 30%</p> <p>③最終レポート 50%</p> <p>上記により総合的に評価する。</p>			
テキスト	使用テキストは特に定めない。プリント資料を配布する。			
参考書	必要に応じて随時紹介する。			
学生へのメッセージ	講義を中心に組み立てますが、学習成果を援助場面で活かすために、グループ・ワークやロール・プレイも重視します。受講生の積極的な取り組みに期待します。			

科目名	社会保障論 I	Social Security I		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	中澤 秀一			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP2、DP4			
授業の目的（GIO）	現代社会において、誰にとっても必要となる社会保障制度について、基本的な考え方としくみを理解することを目的とします。具体的には、どのようなリスク（病気・障害・加齢・失業等）に直面しても生活が困窮しないように、年金保険制度、医療保険制度、雇用保険制度、介護保険制度等の社会保障制度についての基礎知識を身につけます。			
授業の到達目標（SBOs）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障制度のしくみをリスクごとにそれぞれ理解する ・ 社会保障制度がどのような場面で利用されているのかをより身近な問題としてとらえられる力を身につける ・ 社会保障制度を取り巻く現状をきちんと捉えられるようになる ・ 社会保障制度の抱えている課題について理解する 			
授業の計画と内容	第1講 社会保障制度はどのように必要なのか 第2講 社会保障制度の基本的な考え方 第3講 社会保障制度のしくみと賃金保障 第4講 年金保険制度（国民皆年金） 第5講 年金保険制度（負担と給付） 第6講 年金保険制度（年金制度改革） 第7講 年金保険制度（課題と展望） 第8講 医療保険制度（国民皆保険） 第9講 医療保険制度（高齢者医療） 第10講 雇用保険制度（失業に備えて） 第11講 労災保険制度（労働災害について） 第12講 高齢者福祉と介護保険制度（介護保険制度のしくみ） 第13講 介護保険制度の課題と展望（地域包括ケア） 第14講 社会手当制度（児童手当制度） 第15講 障害者福祉（障害者総合支援法）			
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学期末の筆記試験（90%） ・ レポート（10%） 			
テキスト	授業内でプリント配布			
参考書	授業内で適宜紹介			
学生へのメッセージ	この講義では、レジュメを配布します。そのレジュメに書き込む形で授業を進めていきます。また、次回には、その内容を中心とした小テストを実施しますので、以前のレジュメを持参するようにしてください。			

科目名	日本国憲法	The Constitution of Japan			
学科（専攻）・学年	こども学科・1年	単位数	2.0単位		
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	単独	聴講可
担当教員	根本 猛				
ディプロマ・ポリシーとの関連	こども学科 DP1 DP4				
教職免許	教員の免許状取得のための必修科目				
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目				
施行規則に定める科目区分／各科目に含める事が必要な事項	(施行規則に定める科目区分) 日本国憲法				
授業の目的（GIO）	日本国憲法の全体像を理解する。				
授業の到達目標（SBOs）	憲法の基本原理である国民主権・平和主義・基本的人権の尊重について、その意味を理解し説明できる。簡単な問いに答えられる。				
授業の計画と内容	第1講 憲法って何？ 第2講 国民主権と天皇制 第3講 平和主義1 9条と自衛隊 第4講 平和主義2 20世紀末以降の展開 第5講 人権って何？ 第6講 外国人の人権 第7講 法の下での平等 第8講 人身の自由 第9講 信教の自由と政教分離 第10講 表現の自由 第11講 職業の自由 第12講 生存権 第13講 教育を受ける権利 第14講 参政権 第15講 授業のまとめ				
評価の方法	毎回の課題の評価(9割程度)+期末試験(1割程度)				
テキスト	初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門』有斐閣				
参考書	なし				
学生へのメッセージ	大学生になったら新聞を読もう。選挙のときは投票に行こう。				

科目名	データサイエンス入門	Introduction to Data Science		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・2年 こども学科・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可 (担当教員との事前相談が必要)
担当教員	高田 佳輔			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP4、DP5 こども学科DP1、DP5			
授業の目的（GIO）	<p>データサイエンスは近年の社会において重要かつ魅力的とされる科学です。本科目は、twitterやInstagramなどのSNS利用者のデータ、および、スポーツファンのデータを用いつつ、実際に自分たちでデータサイエンスを体験しながらその内実を学ぶ参加型の授業を展開します。データと言われると皆さんは縁遠いものと感じるかもしれませんが、データは案外、私たちの身近に存在しています。例えば、スマートフォンを用いてたくさんのデータを集めることが可能ですし、スマートフォンでそれを分析してしまうこともできます。本授業では、データの利用・分析の手軽さを学びながら、その手軽さゆえに起こりうる統計を用いた「ウソをつかない・ウソに騙されないため」の統計リテラシーを獲得してもらうことを目指します。</p> <p>また、データサイエンスとは、データを中心に、自然現象、社会現象を問わず、既存の学説や仮説を実践的に検証したり、物事の本質に関する情報を探索的に発見する方法論を開発したり、応用への道を開く学問分野です。つまり、問題設定から調査の実施、データの解析、分析結果から価値の創出までの一連の過程がデータサイエンスとなります。このような一連の過程によって問題解決に関する意思決定を行い他者に提案する能力は、現代社会のあらゆる場面において必要とされています。本授業は、みなさんに、あらゆる現場で実践可能なデータサイエンスに関する知識・能力を獲得してもらうことを目的としています。</p>			
授業の到達目標（SBOs）	<ul style="list-style-type: none"> ・統計による「ウソをつかない・ウソに騙されない」リテラシーを獲得する。 ・設定した問題に適した調査を設計できるようになる ・問題設定に適したデータ解析手法を選択できるようになる。 ・基礎的なデータ解析手法を身につける。 ・解析結果から、価値の創造ができるようになる。 ・実際の調査データを用いてデータ解析から価値の創造まで行えるようになる。 			
授業の計画と内容	<p>第1回 データサイエンスの社会における役割（1）：データの有用性とウソ</p> <p>第2回 データサイエンスの社会における役割（2）：データサイエンスの各過程の重要性</p> <p>第3回 調査の設計：データの取得方法（無作為抽出、有意抽出）、管理方法</p> <p>第4回 データ分析の実践（1）：平均値・標準偏差</p> <p>第5回 データ分析の実践（2）：度数分布表・ヒストグラム</p> <p>第6回 データ分析の実践（3）：要約統計量・箱ひげ図</p> <p>第7回 データ分析の実践（4）：t検定</p> <p>第8回 データ分析の実践（5）：一要因分散分析</p> <p>第9回 データ分析の実践（6）：二要因分散分析①</p> <p>第10回 データ分析の実践（7）：二要因分散分析②</p> <p>第11回 データ分析の実践（8）：相関係数</p> <p>第12回 データ分析の実践（9）：単回帰分析</p> <p>第13回 データ分析の実践（10）：重回帰分析</p> <p>第14回 リアルなデータを用いた実習（1）：SNS・ゲームアプリ利用者に利用頻度や対人関係について尋ねたデータを自由に分析①</p> <p>第15回 リアルなデータを用いた実習（2）：SNS・ゲームアプリ利用者に利用頻度や対人関係について尋ねたデータを自由に分析②</p>			
評価の方法	小テストおよび提出物(40%)、期末レポート(60%)			
テキスト	指定なし。毎回資料を配布する。			
参考書	授業内で紹介する。基本的には当該回の授業の発展的な内容を扱う書籍を紹介する。			
学生へのメッセージ	<p>標準的な中学校レベルの数学に対する理解とPCを扱うスキルが多少あれば、基本的には受講に関して問題ありません。データサイエンティストは近年、最も魅力的な職業とも言われています。職業にはせずつとも、データサイエンスに関する知識・能力については、今後の人生において、何かを説得的に提案する時や、ウソの統計に騙されない・統計を用いてウソをつかないために等、多くの場面において役立つことでしょう。</p>			

科目名	音楽通論	Introduction to Music		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	山本 学			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科 DP1			
授業の目的（GIO）	<p>音楽を通じて芸術的感性と素養を養うこと、および幅広い教養を得ることを目的とする。</p> <p>街で耳にしたあのクラシック音楽はなんて曲だろう、いろいろなジャンルの音楽の美しさとその背景について知りたい、楽譜が読めるようになりたい、そんな思いに教養科目として答えたいと考える。音楽の通論として広く一般的に論ずるために、音楽史、演奏、鑑賞、楽典（音楽理論）を有機的に複合しながら理解していく方法で講義を進めていく。</p>			
授業の到達目標（SBOs）	<p>○クラシックを中心にその他多岐に渡るジャンルの音楽に触れ、その構造を理解する。</p> <p>○楽譜の基本的な仕組みについて理解し、初歩の読譜力を身につける。</p> <p>○音楽を通じて、芸術的感性と素養を養う。</p>			
授業の計画と内容	<p>第1講 西洋音楽史の俯瞰／音名／のだめカンタービレとクラシック音楽（第5講まで）</p> <p>第2講 古代・中世の音楽／音と音楽の概念・要素</p> <p>第3講 ルネサンスの音楽1／楽譜の読み方1 譜表</p> <p>第4講 ルネサンスの音楽2 C.モンテヴェルディ“ecco mormorar l'onde”／楽譜の読み方2 クレ読み</p> <p>第5講 バロックの音楽1ヘンデル／楽譜の読み方3 まとめ</p> <p>第6講 バロックの音楽2 J.S.バッハ／拍子記号と音符の長さ／指揮者C.クライバーの音楽</p> <p>第7講 古典派の音楽 モーツァルト／4拍子のリズム／指揮者小澤征爾の音楽</p> <p>第8講 古典派からロマン派へ／3拍子のリズム／サン＝サーンス“動物の謝肉祭”</p> <p>第9講 ピアノ鍵盤と連弾／日本の年末のクラシック・ベートーヴェン“第九”</p> <p>第10講 ロマン派の音楽 シューマン、メンデルスゾーン、ブラームス、リスト、ショパン</p> <p>第11講 近代の音楽 ドビュッシー、ラヴェル、ラフマニノフ</p> <p>第12講 オペラ・ミュージカルの魅力1 ビゼー“カルメン”第1幕、第2幕もしくはミュージカルシネマ前半</p> <p>第13講 オペラ・ミュージカルの魅力2 ビゼー“カルメン”第3幕、第4幕もしくはミュージカルシネマ後半</p> <p>第14講 現代の音楽 S.ライヒ“city life”（サウンドスケープ、ミニマル、サンプリング、言葉の旋律）</p> <p>第15講 ワールドミュージックとクロスオーバー</p>			
評価の方法	授業中の提出物70%、期末レポート30%により評価する。			
テキスト	授業中に適宜、資料を配布する。			
参考書	特になし			
学生へのメッセージ	<p>この授業でたくさんの音楽に触れ、その背後にある深淵な世界に思考と感性を広げていきましょう。</p> <p>途中、楽器に触れる体験はありますが、人前で演奏することはないので、初心者でも恥ずかしい人でも大丈夫です。</p> <p>また、リアクションペーパーなどを通して、受講生の皆さんの興味に合わせて授業と一緒に作っていきたいと思います。</p> <p>（特に社会福祉専攻対象で開講していますので、学科の特性に合わせた内容も希望があれば扱います）</p>			

科目名	生活と法	Life and Law		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・1年 社会福祉学科介護福祉専攻・1年 こども学科・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	根本 猛			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社福福祉学科 DP1 DP4 こども学科 DP4			
授業の目的（GIO）	身のまわりの法律問題に触れるなかで、法や裁判に関心を持つ。			
授業の到達目標（SBOs）	長い人生のなかで困ったとき、法や裁判が役立つかもしれないことを思い出せる。また、そのための必要最低限の知識を身につける。			
授業の計画と内容	第1講 借りたお金を返せという判決に従わないと刑務所？ 強制労働？－法とは 第2講 結婚するかどうかは誰が決める？ 第3講 妊娠しちゃったけど産まないのも自由？ 第4講 離婚と相続 第5講 悪質商法にだまされるな－消費者の保護 第6講 お金を借りたいときは？－利息制限法 第7講 快適な賃貸をめざせ－借家人の保護 第8講 有給休暇を申請したら断られた－労働者の保護 第9講 マージャンでお金を賭けたらマズい？－刑法とは 第10講 もうかるハナシはリスクが大きい－株式市場とは 第11講 憲法とは－立憲主義と日本国憲法の生い立ち 第12講 「普通の国」には軍隊が…日本の平和は？－平和主義 第13講 男も女も育児休業できる！－法の下での平等 第14講 退廃的なポルノや邪教は禁止したほうがよい？－心の自由 第15講 週50時間働いて時給1000円でも仕方がない？－社会権			
評価の方法	毎回の課題の評価(9割程度)+期末試験(1割程度)			
テキスト	副田隆重他『ライフステージと法』有斐閣			
参考書	初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門』有斐閣			
学生へのメッセージ	大学生になったら、新聞を読みましょう。選挙のときは投票しよう。			

科目名	国際関係論	International Relations		
学科（専攻）・学年	全学科・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	金美連			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP2, DP4 社会福祉学科DP1, DP4 こども学科DP1			
授業の目的（GIO）	本講義では、国際関係の歴史と現実を良く理解することを目的とする。前半では、第二次世界大戦以後の国際関係の構造、その変容過程を歴史的に概観する。後半では、国際社会の主要課題である平和、環境、開発、人権といったテーマを取り上げる。			
授業の到達目標（SBOs）	①第二次世界大戦後から現在に至るまでの世界の動向について理解できる。 ②国際社会が当面している問題について理解できる。 ③国際社会と日本の関係について理解できる。			
授業の計画と内容	第1講 講義の概要や国際関係論の必要性について 第2講 国際関係論の誕生の背景や研究対象について 第3講 米ソ冷戦の歴史やアジアの冷戦構造について 第4講 冷戦終結の原因や過程について 第5講 グローバリゼーションとリージョナリズムの意味や現状について 第6講 国連の目的や活動について 第7講 国際文化論の具体的な形態について 第8講 日韓文化の違いについて 第9講 宗教の定義や分類について 第10講 民族紛争の原因やパターンについて 第11講 アメリカの公民権運動や南アフリカ共和国のアパルトヘイトについて 第12講 地球環境問題の原因や国際的な取り組みについて 第13講 南北問題を説明する理論や取り組みについて 第14講 戦後の日本外交について 第15講 21世紀の国際社会について			
評価の方法	レポート40%、テスト60%			
テキスト	毎回プリントを配布する。			
参考書	授業中に随時紹介する。			
学生へのメッセージ	国際社会に目を向けると自分の世界観も広がります。世界史をとってなくても、国際情勢についてあまり知らなくても結構です。日本や世界のことを内と外の視点から論じ合いましょう。			

科目名	地球環境論	Global Environment		
学科（専攻）・学年	全学科・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	*雨谷 敬史			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP2 社会福祉学科DP1 こども学科DP5			
授業の目的（GIO）	地球上の人口は増加の一途を辿っているが、地球上の資源は有限であり、我々は地球環境を意識して生活せざるを得ない状況になっている。地球環境に関する問題を一つ一つ考えていくことにより、今後我々がどのように行動していけばよいのかを、正しい情報を基に考え、理解する。			
授業の到達目標（SBOs）	地球環境で、何が問題となっているかを把握する。このなかでも、世界の人口増加や資源枯渇、気候変動、成層圏オゾン層破壊、酸性雨、残留性有害化学物質汚染、室内汚染などの諸問題について、それぞれの原因・地球環境への影響・国際的な取り組み・技術的な対策・我々にできる対策について考え、現状を踏まえて自分の意見を述べる。			
授業の計画と内容	第1講 ガイダンス、身近な環境問題 第2講 世界の人口問題と限りある資源 第3講 地球環境問題の歴史 第4講 持続可能な開発とSDGs 第5講 気候変動問題とは何か 第6講 気候変動問題の原因 第7講 気候変動問題に対する国際的な取り組み 第8講 気候変動問題対策・環境家計簿 第9講 成層圏オゾン層破壊とその対策 第10講 酸性雨とその対策 第11講 環境中のプラスチック問題 第12講 残留性有機化学物質－DDTからダイオキシンまで 第13講 残留性有機化学物質－有機ふっ素化合物 第14講 環境リスク論と化学物質・微生物や放射線のリスク 第15講 室内汚染・シックハウスと我々の健康			
評価の方法	毎回、授業の内容について、現状を踏まえて疑問点を調べたり、自分の意見を述べたりした内容のミニレポートを作成し、ユニパ経由で提出する。この内容を評価する（100%）			
テキスト	プリント等			
参考書	よくわかる専門基礎講座：公衆衛生（松木秀明編、金原出版）、 ヒューマンエコロジー（野上啓一郎編、共立出版）、 地球環境ハンドブック（不破敬一郎編、朝倉書店）など			
学生へのメッセージ	世の中にはいろいろな情報が氾濫しています。特に、地球環境については、あやしい情報もたくさん飛び交っています。何が正しいかを見定める力を養いましょう。 第2-3回目の授業では、途上国の環境問題を論じる部分において、担当教員がJICAの環境専門家として派遣された経験を元に、環境問題の実態とその対応策について解説します。			

科目名	乳児保育Ⅰ	Nursery of Early Children Ⅰ		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・1年 こども学科・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	*岡村 由紀子			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP1、DP4、DP5 こども学科DP1、DP5			
授業の目的（GIO）	<p>現代社会は、少子高齢化が進み女性の労働人口が増加する中、ますます社会で子どもを育てる（社会的養育）時代となっています。</p> <p>そんな中、子育ての孤立・孤独化による親への子育て支援が急務となり、乳児保育への高まりが大きくなっています。乳児の育ちは、その人間の生涯にわたる人格形成の土台期であり、極めて重要であり又、保育者のやりがいと喜びは大きいものです。</p> <p>この科目では、乳児保育の歴史・意義について理解を深めた上で、「子どもの持つ権利」を深め『子どもの最善の利益』を保証し、豊かな発達保障を生み出す乳児保育の基礎を学び、高い専門性・実践力の土台を身につけることを目的とします。</p>			
授業の到達目標（SBOs）	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割りの理解 ・保育所・乳児保育等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する ・乳児の心身の発達を理解し、乳児保育の基礎的理解（保育内容・運営等）を深める。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者の理解と支援・地域の関係機関の連携など理解する 			
授業の計画と内容	<p>第1講 乳児保育の基本と必要性について</p> <p>第2講 乳児保育の意義（子どもの権利を土台にして）について</p> <p>第3講 乳児保育の養護及び教育の基本について</p> <p>第4講 乳児保育の歴史と保育制度</p> <p>第5講 保育所以外の児童福祉施設における乳児保育について</p> <p>第6講 家庭を取り巻く環境と子育て支援について</p> <p>第7講 愛着と自立について</p> <p>第8講 医学的視点及び集団保育の安全について</p> <p>第9講 養護性（食・排泄・睡眠など）について</p> <p>第10講 乳児保育の教育（あそび等）について</p> <p>第11講 乳児保育の内容（絵本・おもちゃなど）について</p> <p>第12講 乳児保育の環境（人的・物的）について</p> <p>第13講 職員間の連携と協働について</p> <p>第14講 保護者間の連携と協働について</p> <p>第15講 地域・関係諸機関のとの連携と協働について</p>			
評価の方法	授業態度（20%）、提出物（授業振り返りカード25%）、定期試験（55%）を総合的に判断する			
テキスト	川原佐向・古橋紗人子「乳児保育Ⅰ・Ⅱ 科学的観察力と優しい心」（建帛社）			
参考書	<p>上野永子・岡村由紀子・松浦崇共著「保育とアタッチメント」ひとなる書房</p> <p>岡村由紀子著「保育がキラッと変わる！ー子どもの心が見える5つのヒント」ぎょうせい</p> <p>他、授業の中で紹介をします</p>			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業全体を通じて、担当教員が小規模保育所・認定こども園・幼稚園・児童発達支援事業などで長い間、保育実践、保育責任者、園長の立場で担当、経験したことを土台に理論と実践をつなげ「保育を科学する」視点で講義を行います。 ・乳児期の経験は、人間の一生の土台を創ります。 <p>子どもの「人格の育ち」に関わる保育者は、喜びも責任も大きいことを自覚し学びを深め、人間として子どもに「誠実・謙虚」に向かい合う力を身につけていきましょう。</p>			

科目名	教育社会学	Educational Sociology			
学科（専攻）・学年	こども学科・2年	単位数	2.0単位		
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	単独	聴講可
担当教員	橋本 勝				
ディプロマ・ポリシーとの関連	こども学科DP1、DP2、DP4、DP5				
教職免許	教員の免許状取得のための必修科目				
科目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）				
施行規則に定める科目区分／各科目に含める事が必要な事項	（各科目に含めることが必要な事項） ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項				
授業の目的（GIO）	現代の日本社会における教育問題・教育課題及び子どもをめぐる諸問題を、社会との関連の中で理解し、こうした諸課題・諸問題に、幼稚園教諭・保育者として適切に対応することができる力の基礎を身につける。				
授業の到達目標（SBOs）	<p><知識・理解の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを取り巻く諸問題についての基本的な知識を身につける。 現代の幼児教育や幼稚園教諭に関する教育課題・教育問題についての基本的な知識を身につける。 <p><思考・判断・表現の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを取り巻く諸課題・問題を、家族や地域、現代社会との関係性のなかで考え、説明できる。 現代の幼児教育や幼稚園教諭に関する教育課題・教育問題を、歴史や社会との関係性のなかで考え、説明できる。 <p><関心・意欲の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちや家族、幼稚園教諭や幼児教育をめぐる諸課題・問題について、解決や改善の方策を、社会の具体的な仕組みとして考えることができる。 <p><態度の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> グループワークなどの学習活動をまとめ、学習成果を確認することができる。 				
授業の計画と内容	<p>第1講 教育社会学とは何か：教育社会学の対象と方法について学ぶ。</p> <p>第2講 教育問題の社会学：教育問題の類型を整理し、教育問題へのアプローチのしかたを検討する。</p> <p>第3講 自己形成と社会化：子どもの成長と発達を「社会化」ととらえ、社会化の基本的な理論を理解する。</p> <p>第4講 家族と社会化：子どもの社会化における家族の意味や機能を検討する。</p> <p>第5講 学歴社会における大人の関りと子どもの語彙力：日本の学歴社会の傾向について理解し、学歴社会や社会的格差が、子どもたちにどのように影響を及ぼしているかを検討する。</p> <p>第6講 虐待とペアレントクラシー：現代社会の家庭生活のあり方と子どもの内面世界を検討する。</p> <p>第7講 仲間集団における社会化：「重要な他者」と「一般化された他者」概念を中心に、仲間集団における子どもの社会化を理解する。</p> <p>第8講 子どものいじめ：学校教育におけるいじめの全体的な傾向を理解し、幼児教育の場面のいじめや人間関係のトラブルと教師の関り方を検討する。</p> <p>第9講 ジェンダーと教育：子どもの性差の芽生えや性認識と教師の専門性との関連について検討する。</p> <p>第10講 貧困と子ども：貧困など、子どもを取り巻く困難な環境と教師の関わり方を検討する。</p> <p>第11講 インクルーシブ教育：インクルーシブ教育の現状と、教師の専門性や課題について検討する。</p> <p>第12講 教師と同僚性：同僚性の在り方と、新任教員のリアリティ・ショックや職業的な社会化、教師の力量形成について検討する。</p> <p>第13講 教師の子ども観と職能成長：教育実習など、子ども観や保育観の形成や変容の契機と、教師の職能成長について検討する。</p> <p>第14講 非認知的能力：非認知能力の形成と幼児教育との関連について検討する。</p> <p>第15講 学校安全：事例から学ぶー防災：幼稚園教育における防災教育の現所と課題について検討する。</p>				
評価の方法	講義中課す「ミニレポート」と、学期末に課す最終レポートによって評価する。 「ミニレポートの作成30点」＋「期末に提出する最終レポート70点」＝100点満点。合計60点以上を合格とする。				
テキスト	特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。授業中に参考文献等を紹介する。				
参考書	野辺陽子編『家族変動と子どもの社会学』新曜社2022年、永久欣也・飯田哲也『保育の社会学』学分社（2014年）、住田正樹・高島秀樹編『変動社会と子どもの発達』北樹出版（2023年）住田正樹『子ども社会学の現在』（2014年）				
学生へのメッセージ	この授業では、教育課題や教育問題を、それに直接的にかかわる個人に結び付けて理解するのではなく、社会とのかかわりのなかで捉え、理解することを試みてください。				

科目名	子どもの表現A	Arts for Early Childhood Care and Education A(Music)			
学科（専攻）・学年	こども学科・2年	単位数	1.0単位		
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	演習	単独	聴講可（保育士、幼稚園教諭に興味がある人）
担当教員	山本 学				
ディプロマ・ポリシーとの関連	こども学科DP1,3				
教職免許	教員の免許状取得のための必修科目				
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目				
施行規則に定める科目区分/各科目に含める事が必要な事項	領域に関する専門的事項 ・表現				
授業の目的（GIO）	すでに修得したわらべうた、手遊びなどの音楽や歌を伴う表現活動の内容を子ども達にどう活用していくかを検討する。マザリーズ、子どもの歌唱的な応答など、音楽に深くかかわっている表現についてもその理論を学ぶ。我が国の音楽について経験する。小学校音楽科との関連について理解する。				
授業の到達目標（SBOs）	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者になる上で直面する音楽表現の課題について理解し、検討する。 ・遊び歌を子どもたちに合わせて工夫することができる。 				
授業の計画と内容	第1回：音楽表現にはどんなものがあるか？音まで範囲を広げて考えてみる 第2回：最新の研究と論文から学ぶ「音楽と表現」1.論文を探して読んでみる 第3回：最新の研究と論文から学ぶ「音楽と表現」2.講義者による最新研究の紹介 第4回：手遊び歌、ふれあい遊び歌を子どもの発達段階に合わせて工夫してみる 第5回：わらべうたを子どもの発達段階に合わせて工夫してみる 第6回：鍵盤ハーモニカなどの器楽活動を幼児が行う意味について考えてみる 第7回：発表会の意味について考えてみる～広場の音楽とステージの音楽～ 第8回：子どもと我が国の音楽1.国歌「君が代」 第9回：子どもと我が国の音楽2.和太鼓 第10回：乳児の音の世界と聴こえ方（選択的聴取、ブロードバンドリスニング） 第11回：マザリーズと子どもの歌唱的な応答 第12回：小学校音楽科との関係1.歌唱共通教材 第13回：小学校音楽科との関係2.小学校1年生の音楽科教科書に掲載されている歌 第14回：イメージの共有と遊びの展開の関係（理論と音楽表現） 第15回：世界四大音楽教育家の理論（ダルクローズ、コダーイ、オルフ、マリー＝シェーファー） 定期試験：レポート、クレ読み				
評価の方法	レポート40%、クレ読み30%、授業中の小レポート30%で評価。				
テキスト	特になし（各自でファイルを用意してもらいます）				
参考書	授業中に紹介				
学生へのメッセージ	1年生では手遊び歌、わらべうた、子どもの歌、ピアノなどたくさん経験しました。例えば、手遊び歌も71種類覚えましたが、これは基礎、引き出しとなり今後のみなさんの役に立つはずですが、この授業においてはこういった保育者としての引き出しをどう現実で活かしていくのか考えていきます。そして、ただ音楽を実施する保育者から一歩抜け出し、自ら考えられる保育者への第一歩としていきたいと思います。				

科目名	現代と歴史	The Modern Age and History		
学科（専攻）・学年	全学科・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	厚地 淳司			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP2 社会福祉学科DP2, DP4 こども学科DP1, DP5			
授業の目的（GIO）	①この授業は、現代の静岡県という地域に暮らしているわれわれに比較的身近な、原始・古代から近現代に至る、様々な歴史的な事象を主な内容とする。 ②第一の目的は、歴史を学ぶことを通じて、現代とは異なる社会の枠組みや価値観、すなわち「自己」とは異なる「他者」の存在を認識することにより、「自己」の生きる現代という時代を相対化して見る姿勢・能力を身につけることである。 ③現代という時代は、過去の蓄積である側面も持つ。第二の目的は、ここから現代社会が、いかなる歴史的な基盤が産み出したものであるのかについて、考察し理解するものである。			
授業の到達目標（SBOs）	①授業において取り上げる歴史的諸事象について記述あるいは説明することができる。 ②授業において取り上げる歴史的諸事象と現代の身近な事象との関連を考えることができる。 ③上記の①②を踏まえて、現代社会の課題を見つけ出す、あるいは考えることができる。 ④毎回の講義に関するワークシートに記入する。			
授業の計画と内容	第1講 ガイダンス 第2講 歴史学の方法と歴史を学ぶ意義 第3講 先史時代の社会と文化―埋蔵文化財保護の問題を考える― 第4講 古代の東海道―日本史と地域史の接点を考える― 第5講 須恵器から六古窯へ―身近な生活用具の素材の歴史をさぐる― 第6講 頼朝の生涯―日本史の転換点と静岡県地域その1― 第7講 箱根竹之下の戦い―日本史の転換点と静岡県地域その2― 第8講 霊山寺梵鐘と鋳物師集団―地域社会形成の主体としての民衆― 第9講 戦国大名と国衆―権力と地域社会の関係を考える― 第10講 小田原攻めと駿河・伊豆―日本史の転換点と静岡県地域その3― 第11講 江戸時代の新田開発―持続可能な開発とは？― 第12講 江戸時代民衆の運動と思想―民衆の知的力量をさぐる― 第13講 明治維新の政権構想と自由民権―「おおやけ」と「パブリック」― 第14講 日本国憲法の制定過程―鈴木安蔵の憲法草案を中心に― 第15講 まとめ			
評価の方法	平常点（毎回の講義に関するワークシート）45%、期末レポート55%			
テキスト	講義の際にプリントを配布する。			
参考書	講義の際に紹介する。			
学生へのメッセージ	歴史を学ぶことが、自身のアイデンティティを再確認し、自分たちの未来について考えるきっかけとなることを願っています。			

科目名	生物学	Biology		
学科（専攻）・学年	全学科・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	小林公子、大原裕也、明正大純			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP1, DP2 社会福祉学科 DP4 こども学科 DP1, DP5			
授業の目的（GIO）	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の仕組みについて理解するために、生物が持つ基本的な特徴を理解するとともに、地球上における生命の歴史や進化について理解を深める。 ・情報伝達の観点から「発生」と「恒常性」の特性をとらえ、生命の連続性について理解を深める。 ・性決定・生殖腺分化・ホルモンのはたらきを学び、水産や環境（内分泌かく乱）との関わりについて理解を深める。 			
授業の到達目標（SBOs）	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の構造と機能について説明できる。 ・遺伝子およびタンパク質の構造と機能について説明できる。 ・動物の発生の仕組みを説明できる。 ・遺伝子から個体・生態に至るまでの生命の階層性を説明できる。 ・遺伝子と進化の基本を理解し、生物の多様性を説明できる。 ・性決定・内分泌・毒性の関係を理解し、生殖への影響を水産・環境の視点で説明できる。 			
授業の計画と内容	第1講 細胞：生命の基本単位である細胞の構造と機能（担当：小林） 第2講 細胞分裂：細胞分裂と細胞周期の制御（担当：小林） 第3講 遺伝子：遺伝子の構造と機能（担当：小林） 第4講 タンパク質：タンパク質の構造と機能（担当：小林） 第5講 生命の歴史と進化：生物の多様性と進化（担当：小林） 第6講 情報伝達と発生1：受精と初期発生（担当：大原） 第7講 情報伝達と発生2：成長・性成熟・生殖（担当：大原） 第8講 食品と恒常性：健康維持に欠かせない栄養の話（担当：大原） 第9講 食品生産×発生：新たな食品を生み出すバイオテクノロジー（担当：大原） 第10講 遺伝学の基礎：遺伝子と形質をつなぐ仕組み（担当：明正） 第11講 遺伝子から見た進化：集団の変化と系統の読み解き（担当：明正） 第12講 性決定：遺伝性決定と環境性決定（担当：明正） 第13講 生殖腺分化と内分泌：ホルモンによる性成熟制御を用いた水産への応用（担当：明正） 第14講 毒性と内分泌かく乱物質：生殖への影響をどう捉えるか（担当：明正） 第15講 全体のまとめと総合討論（担当：小林）			
評価の方法	試験（期末テスト）（90％）と課題への取り組み（10％）にて評価する。 合格には60%以上の理解が必要。			
テキスト	ニューステージ 生物図表（浜島書店）			
参考書	授業内で紹介する			
学生へのメッセージ	期末テストの受験には、3分の2以上の授業への出席が必要です。 生物が持つ生命現象の不思議や面白さを一緒に考えましょう。			

科目名	地域社会論	Sociology of Community		
学科（専攻）・学年	全学科・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	志田 倫子			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP4 社会福祉学科DP2、DP3 こども学科DP1			
授業の目的（GIO）	<p>今日、都市化・国際化・情報化に見られる社会のグローバル化が進展する一方で、改めて身近な生活の場である地域社会・コミュニティに関心が集まっています。かつて生活の基礎・基盤をなしてきた共同体的な地域社会は都市化の過程で崩壊したかに思われましたが、その後再びその役割が注目されて、これまでとは違った形で形成されてきました。講義では地域社会の定義、都市化による地域社会の衰退、コミュニティ形成に至る経緯やその方法などを理解します。その上で、グローバル化社会における外国人との共生、震災復興のまちづくり、地域福祉の展開など現代の地域社会について実態を把握していきます。地域福祉の分野では、伴走者が生活困窮者を支援する伴走型支援によるコミュニティ形成などに触れていきます。国内のコミュニティ形成の特徴的な事例を中心に扱っていきますが、静岡県内（生涯学習まちづくりで知られる掛川市や静岡市宇津ノ谷地区など）についても取り上げます。</p>			
授業の到達目標（SBOs）	都市・農村、コミュニティ研究について概観し、戦後の日本のコミュニティ形成について理解を深める。			
授業の計画と内容	<p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義概要 1 農村から都市へ、コミュニティ形成への流れ（基本編） 2 地域社会論へのアプローチ 3 日本の農村社会 4 戦後の農業・農村の変貌と都市化社会へ 5 都市化社会（1）－イギリスの産業革命－ 6 都市化社会（2）－シカゴ学派のアーバニズム論－ 7 日本のコミュニティ形成（1）－生活の場における人間性の回復－ 8 日本のコミュニティ形成（2）－コミュニティづくりの条件と進め方－ 9 掛川市の生涯学習まちづくり運動－とはなにか学舎の講座のシステム－ II 地域社会の現状分析（応用編） 10 今日のコミュニティづくりの事例－限界集落に目を向けて－ 11 エスニック集団と地域社会（1）－グローバル化とニューカマーの来日－ 12 エスニック集団と地域社会（2）－ホスト社会との協働関係の模索－ 13 震災復興のまちづくり 14 地域福祉の展開－生活困窮者の伴走型支援－ 15 静岡市のコミュニティづくり－まちづくり講座受講生による静岡市宇津ノ谷地区のふるさとづくり－ 			
評価の方法	試験結果（70%）、授業中の提出物（30%）			
テキスト	テキストは指定しませんが、地域社会学や関連の基本的な参考図書を授業中に紹介します。講義は主にPowerPointを使って行います。			
参考書	<p>高橋勇悦（監修）2013『改訂版 21世紀の都市社会学』学文社 三浦典子・横田尚俊他（編著）2017『地域再生の社会学』学文社 森岡清志（編）2008『地域の社会学』有斐閣アルマ 森岡清志・北川由紀彦（編著）2018『都市と地域の社会学』放送大学教育振興会</p>			
学生へのメッセージ	生活に密着した地域社会の現状、変化、問題に絶えず関心をもち、あわせて、地域社会で自分が何ができるかを考えながら授業にのぞんでください。			

科目名	特別な教育的ニーズの理解と支援	Understanding and Supporting Children with Educational Needs			
学科（専攻）・学年	こども学科・2年	単位数	2.0単位		
開講年度学期	令和8年度 前後期（通年）	授業区分	演習	単独	聴講可
担当教員	甲賀 崇史				
ディプロマ・ポリシーとの関連	DP1、DP2、DP3、DP5				
教職免許	教員の免許状取得のための必修科目				
科目	教育の基礎的理解に関する科目				
施行規則に定める科目区分／各科目に含める事が必要な事項	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解				
授業の目的（GIO）	特別な配慮を必要とする子どもが主体性を発揮し、充実感や達成感を味わいながら園生活を送ることができるように、一人ひとりの教育的ニーズに応じたり、教職員や関係機関と連携したりするために必要な理念、知識・技術などを学ぶ。				
授業の到達目標（SBOs）	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な配慮を必要とする幼児について理解している ・特別な配慮を必要とする幼児の支援の方法について理解している ・障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児について理解している 				
授業の計画と内容	<p>第1講 オリエンテーション</p> <p>第2講 園における障害のある幼児などへの指導</p> <p>第3講 障害のある幼児などへの指導における基本的な考え方</p> <p>第4講 障害のある幼児などの困難さに応じつつ全体的な発達を促す支援の在り方</p> <p>第5講 視覚障害に関する基本的な理解と支援の手立て</p> <p>第6講 聴覚障害に関する基本的な理解と支援の手立て</p> <p>第7講 知的障害に関する基本的な理解と支援の手立て</p> <p>第8講 肢体不自由に関する基本的な理解と支援の手立て</p> <p>第9講 病弱・身体虚弱に関する基本的な理解と支援の手立て</p> <p>第10講 言語障害に関する基本的な理解と支援の手立て</p> <p>第11講 情緒障害に関する基本的な理解と支援の手立て</p> <p>第12講 自閉症などに関する基本的な理解と支援の手立て</p> <p>第13講 学習障害に関する基本的な理解と支援の手立て</p> <p>第14講 注意欠如多動性障害に関する基本的な理解と支援の手立て</p> <p>第15講 まとめ</p> <p>第16講 体制整備の必要性</p> <p>第17講 個別の教育支援計画と個別の指導計画</p> <p>第18講 保育者の理解推進と専門性の向上</p> <p>第19講 専門家を活用した園運営</p> <p>第20講 専門機関との連携</p> <p>第21講 事例検討：日々の先生同士の会話の中で障害のある幼児などが抱える困難さに気付く</p> <p>第22講 事例検討：日々の様子を共有していくことで障害のある幼児などの実態把握</p> <p>第23講 事例検討：障害のある幼児などの困難さから支援を考えるために園内委員会の活用</p> <p>第24講 事例検討：外部有識者の助言を生かして支援の手立てを考える</p> <p>第25講 事例検討：障害のある幼児などの実態に応じた行事参加について</p> <p>第26講 事例検討：多様な子どもが共に遊びや生活を楽しむことのできる関係</p> <p>第27講 事例検討：園が療育機関での助言を生かしながら障害のある幼児などの育ち</p> <p>第28講 事例検討：家庭、園、関係機関が連携して障害のある幼児などの支援</p> <p>第29講 事例検討：園と小学校が連携して切れ目ない支援</p> <p>第30講 事例検討：保護者の支援と連携について</p>				
評価の方法	授業態度10%、提出物10%、定期試験80%				
テキスト	なし				
参考書	授業で紹介する				
学生へのメッセージ	積極的に参加しましょう。				

科目名	公的扶助論	Public Assistance		
学科（専攻）・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	中澤 秀一			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科DP2、DP4			
授業の目的（GIO）	生活保護制度を中心に生活困窮者への施策について学ぶとともに、格差や貧困についてその実態だけではなく歴史のおよび理論的なアプローチから理解できるようにする。			
授業の到達目標（SBOs）	貧困問題については、歴史・理論・実態等を系統立てて理解できるようにする。生活保護制度については、制度体系・課題等を系統立てて理解できるようにする。 そのうえで、生活保護制度が支援の現場でどのように活用されているのか、自らの問題としてもとらえられる力を身につけられるようにする。			
授業の計画と内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 公的扶助史（イギリス） 3. 公的扶助史（貧困調査） 4. 公的扶助史（日本） 5. 生活保護制度（法目的と原理） 6. 生活保護制度（原則） 7. 生活保護制度（保護基準） 8. 生活保護制度（保護の種類） 9. 生活保護制度（実施体制） 10. 生活保護制度（保護の動向） 11. 生活保護制度（保護施設と低所得者への施策） 12. 現代の貧困と生活の社会化 13. 朝日訴訟 14. 生活困窮者自立支援制度 15. 総括 			
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学期末の筆記試験（90%） ・ レポート（10%） 			
テキスト	授業内でプリント配布			
参考書	授業内で適宜紹介			
学生へのメッセージ	この講義では、レジュメを配布します。そのレジュメに書き込む形で授業を進めていきます。また、次回には、その内容を中心とした小テストを実施しますので、以前のレジュメを持参するようにしてください。			

科目名	実用英会話	Practical English Conversation		
学科（専攻）・学年	全学科・1年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 通年	授業区分	演習	聴講可
担当教員	Michael K. Peters (ピーターズ マイケル)			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP1、DP5 社会福祉学科DP5 こども学科DP3			
授業の目的（GIO）	This is a basic conversation class. Students will develop confidence in their English speaking skills by being active and talking about everyday life, experiences, and thoughts. Students who successfully complete the course will be able to use communication strategies, handle basic communicative tasks (such as greetings, requests, or advice).			
授業の到達目標（SBOs）	*To build new friendships through speaking English *To get used to being in an English-only environment and motivate students to use English freely *To build confidence and overcome fear of making mistakes when speaking English *To enjoy English and encourage students to continue studying and speaking English after this course is complete			
授業の計画と内容	<p>Week</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Class Introduction - Hi, How are you? / Goodbye Lesson 2 Hit – how to use “hit” in a few different ways 3 Adverbs of Frequency – talking about habits, routines, and daily life (how often) 4 "Fun" and "Excited" - reminiscing about memories and experiences / expressing optimism for future events 5 Hang - popular English phrases that contain "hang" 6 Play - common phrases in everyday English with "play" 7 Fresh - a well-timed lesson for freshman using multiple phrases with "fresh" in the mix 8 Colors - well-used English expressions using different "colors" 9 Pooped - a multitude of ways to convey fatigue 10 Think - a variety of verbs using "think" 11 Numbers – popular English phrases that include numerical values and measurements in them 12 Game – colloquial expressions containing "game" 13 Crush - contemporary phrases including up-to-date American slang featuring the word "crush" 14 Stick - using "stick" in a variety of ways to communicate goals and also express ambiguity 15 Zoom – vocabulary related to online meetings 16 First Semester Overview (during Final Exam period) <ol style="list-style-type: none"> 17 Class Refresher – Wow! – using interjections for emotional reactions 18 Thank You – how to show gratitude in several ways 19 I'm Sorry – a variety of expressions to express regret or sorrow 20 Freak / Fear – multiple words and phrases including slang related to fear and Halloween 21 Catch – using the word “catch” to express difficult circumstances, in greetings, and social situations 22 Sweet – various adjectives and phrases that include the word “sweet” 23 Save – common phrases that use the word “save” 24 More Games – a sequel to the “Game” lesson from the first semester with additional “game” phrases 25 Colors II – a follow-up to the “Colors” lesson from the first semester 26 More Numbers – Part II to the “Numbers” lesson from the first semester 27 Clear – words related to communicating with clarity 28 Sick Kicks – vocabulary / slang related to fashion – Part I 29 Fashion Police - vocabulary / slang related to fashion – Part II 30 Hit Harder – second part of the “hit” vocabulary building lesson 31 Pitch – how to make an “elevator pitch” (confidence builder in communication and public speaking) 32 Second Semester Overview (during Final Exam period) 			
評価の方法	Homework 20%, Quizzes 30%, Participation 20%, Final Overview 30%			
テキスト	<p>（前期 — 講義の際にプリントを配布する。Teacher will provide all materials. （後期 — Textbook / 教科書「Gamechanger II – More English to Stay Ahead of the Game」前期の最後の講義までに詳細が提供されます。The teacher will provide more details at the end of the first semester.</p>			
参考書	Please bring a notebook. Students are encouraged to bring and use a tablet, laptop, or smartphone to access Google Forms and to take part in communication exercises.			
学生へのメッセージ	<p>野球選手は三割打てば、スーパースターとみなされる。つまり七割失敗しても、成功者なのだ。英語を学ぶのも同じ事。失敗を怖れず、自信を持って！ If a baseball player hits .300 (in baseball, .300 =three hundred =30%), they are considered a superstar. They make mistakes 70% of the time, and they are considered successful. The same goes for learning English. Don't be afraid to make mistakes and be confident! (The actual content of the classes may differ from that listed in this syllabus. シラバスに記載されている授業内容と実際の授業内容が異なる場合がございます)</p>			

科目名	生命と倫理	Biology and Ethics		
学科（専攻）・学年	歯科衛生学科・1年 社会福祉学科社会福祉専攻・2年 社会福祉学科介護福祉専攻・1年 こども学科・2年	単位数	2.0単位	
開講年度学期	令和8年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	堂園（どうぞの）俊彦			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP2、DP4 社会福祉学科DP1, DP4 こども学科DP2			
授業の目的（GIO）	先端技術の進展、さらには人々の価値観の多様化にともない、生命をめぐる様々な問題が議論されています。この講義では、そうした問題に関してどのような考え方があるのかを理解すること、さらには、そうした問題を自ら考え議論する力を身に着けることを目的とします。			
授業の到達目標（SBOs）	1) 現代においてどのような事柄をめぐる、いかなる対立が生じており、さらにはどのような解決策が示されているのかを説明できるようになる。 2) 生命をめぐる問題に関して、論理的に思考し、議論することができるようになる。			
授業の計画と内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.生命の倫理をめぐる歴史と基本原則について 2.インフォームド・コンセントの基本的な考え方 3.ディスカッションー宗教上の信念にもとづく治療拒否 4.がんの告知 5.人工妊娠中絶 6.ディスカッションー選択的人工妊娠中絶 7.生殖補助医療 8.人を対象とする医学系研究 9.安楽死 10.ディスカッションー治療の不開始は許されるか 11.遺伝と医療 12.HIV／エイズ 13.医療資源の配分 14.ディスカッションー誰から救うべきか 15.動物倫理 			
評価の方法	定期試験（100%）			
テキスト	特になし。			
参考書	赤林朗他『入門・医療倫理I〔改訂版〕』, 勁草書房, 2017. 木村利人監修『看護に生かすバイオエシックス』, 学研, 2004.			
学生へのメッセージ	倫理を考えることは決して簡単なことではありませんが、私たちの日々の生活に欠かせないものですし、とりわけ人をケアする職業にとっては不可欠です。この講義を通じて、倫理に関して真剣に、そして粘り強く考える力を身につけてほしいと思っています。			